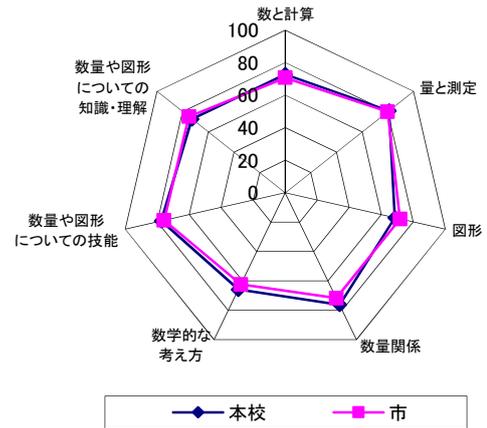


# 宇都宮市立今泉小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	72.8	70.8	65.9
	量と測定	80.9	79.9	77.0
	図形	68.5	71.8	74.6
	数量関係	76.2	71.7	73.4
観点別	数学的な考え方	65.9	62.5	59.4
	数量や図形についての技能	77.5	75.8	73.3
	数量や図形についての知識・理解	72.7	75.1	76.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>平均正答率は、市の平均よりも高い。</p> <p>○小数倍の比較量を求める立式や分数の除法に適した図を選ぶ設問では市の平均を上回っている。計算ドリルやプリントを利用して繰り返し課題に取り組んだ成果であると考えられる。</p> <p>●問題場面を理解し、矛盾点を説明する設問では、市の平均正答率を上回っているものの、56.1%であり課題といえる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題に合わせて四則計算を活用するような問題に、これまで通り取り組むことで、問題処理に慣れるとともに考え方の定着を目指す。</li> <li>授業場面で正答の確認に終始せず、誤答を基に学び合える授業展開を推進することで言語活動の充実を図り、思考力・表現力の向上を目指す。</li> </ul>
量と測定	<p>平均正答率は、市の平均よりもやや高い。</p> <p>○単位当たり量に関する設問では、市の平均を10ポイントを超える正答率を得た設問もある。丁寧に平均や密度の考え方を指導した成果であると考えられる。</p> <p>●ひし形や複合的な図形の面積を求める設問の正答率は、市の平均を上回っているが、8割に届かず更なる習熟が必要だと言える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>面積と体積、平均や密度等の考え方や求め方に関する課題を定期的に出すことで、復習する機会を設け、学習内容の定着を図りたい。</li> <li>本領域に対して苦手意識をもっている児童には、個別に声を掛けて支援することで更なる向上を目指せるようにする。</li> </ul>
図形	<p>平均正答率は、市の平均を下回っている。</p> <p>○図形の展開図や対称に関する設問では、正答率が8割を超えるものがあり、十分な定着がうかがえる。</p> <p>●多角形の内角の和を求める設問では、正答率が5割を下回っていた。また、合同な三角形の作図では、市の平均を大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>図形に関する身に付けるべき学習内容を復習できる機会を設け、既習事項の定着を図る。</li> <li>作図の力を育むために、作図の経験を重ねられるような活動を積極的に取り入れる。</li> </ul>
数量関係	<p>平均正答率は、市の平均を大きく上回っている。</p> <p>○反比例についての表を読み取る設問の正答率は85%を超え、市の平均を9.2ポイント上回り、十分な定着が図れていると言える。</p> <p>○●割合に関する記述式の設問の正答率は、市の平均を上回っているものの、4割を下回り課題を残す結果となっている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>比例、反比例等の学習において、なぜそうなるのか友達と説明し合う活動を取り入れることで、その考え方の定着を図る。</li> <li>図や数直線を活用して数量関係を可視化する活動を取り入れることで、数量の関係への理解を促す。</li> </ul>